

令和7年度 羽咋市立羽咋中学校 学校研究

1 研究主題 「主体的・協働的に学び、高め合う生徒の育成」

～学習者主体の委ねる授業を通して～

<主題設定理由>

2年前から「複線型授業」をキーワードに授業改善に取り組む中で、生徒が自らの学び方を選択できる場面を工夫してきたが、基礎的な学習内容の理解に個人差があることや、単元のゴールイメージと授業の学習課題を生徒と十分に共有されないまま授業を進めてしまうことがあった。また、生徒に委ねるイメージが教員間で適切に共通理解できていなかった。

そこで今年度は、委ねる5つの型を示し、委ねる時間について授業者がより具体的に考え、生徒と共に共通の軸を意識しながら授業改善に向かうことを目指し、学校研究に取り組むこととした。

2 育成を目指す資質・能力

他者と協働しながら主体的に学ぶ力（人間関係形成能力・自己教育力）

3 目指す生徒の学びの姿

- ・他者の考えや意見を聞き、自ら考え判断し、相手に伝わるように適切に表現する。
- ・自分自身の学びを振り返り、自分にとってのよりよい学び方を主体的に模索する。

4 研究仮説

- (1) 個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業づくりを継続し、ICTをより効果的に活用することで、学習者に委ねる時間を充実させることができるであろう。
- (2) 共通の軸を意識することで、単元ゴールや本時の課題を生徒と常に共有し、必要感のある活動や振り返りにつなげることができるであろう。
- (3) 委ねる型を意識することで、授業で生徒に委ねる時間を具体的に設定し、教員が自分の授業の在り方をより深く検証し、改善に向かうことができるであろう。

5 研究の内容と手立て

- (1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けての取組
 - ①単元デザインの中に生徒に委ねる時間を意図的に設定する。見取りのための振り返りも日常化し、職員会議後の「ミニ交流会」で成果や改善点について職員間で共有する。
 - ②単元の初めに教師と生徒がゴールイメージを共有し、ゴールに向かってより意欲的に取り組めるような導入や課題設定の工夫をする。
 - ③生徒が自らの学びの足跡を実感できるように、単元の中で意図的に振り返りの時間を設け、学びを蓄積し、次の学びへの見通しをもてるようにする。
- (2) 生徒の活動の質、教師の働きかけの質を高める工夫
 - ①研究授業等で抽出生徒の授業記録（TC記録）をとる中で、生徒の変容のきっかけとなる教師の発問や働きかけについて記録し、適切に生徒を見取る力を付けるとともに、活動の充実につながるような指導の向上を目指す。
 - ②研究授業等において、委ねる時間の有効性や手立ての適切さを協議するため、参観の視点を新たに設定する。
- (3) 対話力の向上を目指す取組～対話の充実～
 - ①コミュニケーションスキルを向上させるために、月2回の対話タイム「羽トークタイム」を継続して行う。全学年で質の高い1分間トークができることを目指す。
 - ②「羽トーク」での話合いの型やルールを授業中の対話に生かす。
 - ③講演会や集会等の際に、質問した生徒が相手の返答に対して更に一言、意見や感想を付け足す「1往復半」のやり取りができるよう、日頃から指導する。

(4) 生徒会活動と連携した取組

「新・学習ルール5か条」や「パソコンルール3か条」の浸透を図る。また、「学習オリエンテーション」や「学習ルール強化週間」、「学習環境チェック」などの生徒会活動を通して、生徒自身が発信する形で学習規律や学習態度に対する意識を高める。

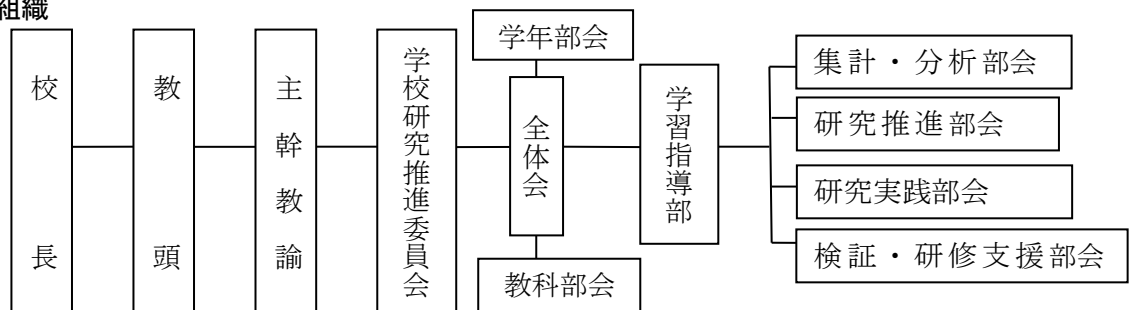
(5) 基礎・基本の定着

- ①「基本タイム」を活用して基礎・基本の定着を図る。結果の掲示や成績優秀者への表彰により、取組への意欲を高める。
- ②A Iドリルや音読アプリを活用し、個別最適な自主学習が継続できるようにする。
- ③毎日の5教科の課題で家庭学習の習慣化を図る。「宿題提出率UP作戦」や「自学ノートコンテスト」などの取組を通して、家庭学習に対する意識の向上と内容の充実を図る。

6 検証方法

- (1) 研究授業の際に授業記録（TC記録）をとり、生徒の様子を具体的に見取る。
- (2) 学校研究についてのアンケートを実施し、定期的に取り組全体の検証を行う。

7 研究組織



(1) 学校研究推進委員会

- ・学校研究の基本方針の企画を行う。
- ・校内研修計画の立案、情報収集、理論の作成を行う。

(2) 学習指導部

- ・研究推進委員会の案について検討し、研修計画を立てる。

(3) 全体会

- ・研修計画に基づき、実践活動の推進のために全職員の共通理解を図る。

(4) 研究4部会

①集計・分析部会

- ・学校の目標を踏まえ、学力調査結果の集計・分析を行い、現状と目標との差から課題を明確にする。
- ・課題の原因を究明し、指導改善の方向性を示す。

②研究推進部会

- ・課題の克服や解決に向けて、実効性のある学力向上プランを作成する。

③研究実践部会

- ・学力向上プランを具体的・計画的に実行し、学校全体の指導力向上を図る。

④検証・研修支援部会

- ・学力向上プランの実施状況について、定期的な検証や取組全体の検証を行う。
- ・計画的なO J Tや検証結果を踏まえ、必要となる校内研修を適宜行う。

(5) 学年部会・教科部会

- ・研究主題に迫る具体的な指導方法や学習形態の工夫等の手立て及び重点を検討し、授業実践を通じて検証する。